



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 フリュー株式会社 上場取引所 東
コード番号 6238 URL <https://www.furyu.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三嶋 隆
問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部 部長 (氏名) 谷 直樹 TEL 03-5728-1761
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 ー
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	21,575	2.3	1,305	△46.2	1,351	△43.1	899	△43.2
2024年3月期中間期	21,083	17.2	2,427	53.2	2,374	50.9	1,583	52.7

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 616百万円 (△65.1%) 2024年3月期中間期 1,765百万円 (52.7%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	34.02	—
2024年3月期中間期	59.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	27,265	21,490	78.8
2024年3月期	28,346	21,862	77.1

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 21,490百万円 2024年3月期 21,862百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	39.00	39.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	39.00	39.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,000	0.5	3,000	△20.4	3,000	△19.7	2,000	△19.7	75.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) FURYU of America, Inc.、除外 1社 (社名)

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	28,296,000株	2024年3月期	28,296,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	1,816,925株	2024年3月期	1,855,989株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	26,442,348株	2024年3月期中間期	26,440,028株

(注) 当社は、当中間連結会計期間より「株式給付信託(BBT-RS)」を導入しており、当該信託が保有する当社株式を期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております(当中間連結会計期間120,000株)。

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの状況の分析	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(会計方針の変更に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 経営成績等の概況

（1）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間（2024年4月1日～2024年9月30日）における我が国の経済は、9月の日銀短観において、大企業の景況感が高水準を維持しており、景気は緩やかに回復傾向にあります。また、内閣府によれば、個人消費は物価上昇の影響を受けつつも、雇用・所得環境が改善する中で、上向き傾向にあります。一方で、為替は日米の金融政策の転換を受けて、円高方向に大きく推移したものの、ロシア・ウクライナ情勢、イスラエル・ハマス紛争の長期化や中国経済の先行き懸念の高まりなど、景気動向は引き続き不透明であります。

このような環境において当社グループは、企業理念「人々のところを豊かで幸せにする良質なエンタテインメントを創出する！」のもと、プリントシール事業の拡大、若年女性層の顧客基盤を活用したマネタイズの多様化、キャラクターIP（知的財産）を利用した商品販売に注力し、2028年3月期を最終年度とする「中期ビジョン」実現に向けた取り組みを行いました。

この結果、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高は21,575百万円（前年同期比102.3%）、営業利益は1,305百万円（前年同期比53.8%）、経常利益は1,351百万円（前年同期比56.9%）、親会社株主に帰属する中間純利益は899百万円（前年同期比56.8%）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

（世界観ビジネス）

世界観ビジネスにおきましては、定番キャラクターや、人気漫画作品及び世界的人気ゲーム等のトレンドを踏まえた多数のIPの獲得とその商品化に引き続き注力し、売上は堅調に推移しております。

なお、商品は主に中国で生産し、ドル建てで決済を行っているため、為替変動は利益に影響を与えることから、その影響幅を抑制するための対策を適宜実施しております。

クレーンゲーム景品は、クレーンゲーム市場拡大と複数の人気IPの商品化に加え、インバウンド需要の後押しの結果、順調に売上を拡大しております。

海外物販は、主要マーケットである中国及びアメリカからの受注状況が改善し、売上は増加しております。新規販路の拡大や海外向けの商品化権の取得に注力しており、9月には、中国ECサイト「天猫（TMALL）」に公式旗艦店を開設しました。

高価格帯ホビーは、収益性を重視した高人気IPの商品化を推進し、ホビーECサイト「FURYU HOBBY MALL（フリーホビーモール）」を活用した販売促進に注力しております。

この結果、世界観ビジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は12,436百万円（前年同期比106.3%）、営業利益は915百万円（前年同期比86.1%）となりました。

（ガールズトレンドビジネス）

プリントシール事業におきましては、新型コロナウイルス感染症がもたらしたライフスタイルやニーズの多様化といった外部環境の変化に対応するため、従来よりも「+αの価値」を体験できる新機種の導入や、定番人気キャラクターとのコラボの実施などユーザー数拡大のための販促施策を実施しました。7月には2.5次元アイドルグループ「すとぷり」とのコラボを実施、9月には“推し活専用”機種「LuvhoLi（ラブホリ）」を発売しました。しかしながら、当中間連結会計期間のプレイ回数は1,491万回（前中間連結会計期間は1,641万回）と前年同期比で減少しました。

プリントシール画像取得・閲覧サービス「ピクトリンク」におきましては、重要なKPIと位置付けている有料会員数は、会員規模を維持するための新規入会者の流入強化施策を実施したものの、2024年9月末時点で139万人（2023年9月末時点は147万人）と前年同期比で減少しました。なお、当サービスのさらなる成長戦略として前期にフォトストレージ・サービス「PiCTLINK photos」をリリースし、今後の利用者数拡大のため、退会率抑制を推進しております。

この結果、ガールズトレンドビジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は7,151百万円（前年同期比94.4%）、営業利益は1,758百万円（前年同期比76.0%）となりました。

(フリーニュービジネス)

家庭用ゲームソフト事業につきましては、7月に新作タイトル『REYNATIS/レナティス』を発売し、既存タイトルのダウンロード版の販売と合わせ、前年を上回る売上となりました。

ゲームアプリ事業においては、4月に配信を開始した「廻らぬ星のステラリウム」について、グッズ販売など、ゲームの魅力を訴求するような各種施策を実施し、売上拡大に取り組みました。

アニメ事業は、4月に放送を開始したTVアニメ「ゆるキャン△」第3期の関連商品の販売が大変好調であり、売上に大きく貢献しております。

カラーコンタクトレンズ事業につきましては、自社ECサイト「Mew contact(ミューコンタクト)」及び外部ECプラットフォーム上の自社サイトにおける販売促進キャンペーンの実施や自社オリジナル商品の投入など、顧客流入数及びリピーターを増加させる取り組みを進めております。

この結果、フリーニュービジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は1,986百万円(前年同期比110.3%)、営業損失は270百万円(前年同期は153百万円の営業損失)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の財政状態は、総資産が27,265百万円、負債が5,774百万円、純資産が21,490百万円となりました。また、自己資本比率は78.8%となりました。

(資産)

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,081百万円減少し、27,265百万円となりました。これは主に棚卸資産の増加388百万円があった一方で、受取手形及び売掛金の減少343百万円、電子記録債権の減少727百万円、流動資産のその他の減少399百万円があったことによるものであります。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ709百万円減少し、5,774百万円となりました。これは主に未払法人税等の減少451百万円、受注損失引当金の減少193百万円、流動負債のその他の減少109百万円があったことによるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ372百万円減少し、21,490百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益計上に伴う利益剰余金の増加899百万円があった一方で、配当金の支払いによる利益剰余金の減少1,031百万円、繰延ヘッジ損益の減少277百万円があったことによるものであります。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの状況の分析

当中間連結会計期間の現金及び現金同等物は、営業活動による収入が2,021百万円、投資活動による支出が1,160百万円、財務活動による支出が1,033百万円となった結果、前連結会計年度末に比べ183百万円減少し11,306百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動においては、税金等調整前中間純利益を1,351百万円、減価償却費を1,084百万円計上しました。また、売上債権は1,071百万円減少、棚卸資産は388百万円増加、未払金は164百万円減少、法人税等の支払額は891百万円となりました。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは、2,021百万円の収入(前中間連結会計期間は1,816百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動においては、有形固定資産の取得による支出が865百万円、無形固定資産の取得による支出が313百万円となりました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは、1,160百万円の支出(前中間連結会計期間は933百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動においては、セール・アンド・リースバックによる収入が871百万円、リース債務の返済による支出が874百万円、配当金の支払額が1,031百万円となりました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは、1,033百万円の支出 (前中間連結会計期間は1,006百万円の支出) となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年5月14日に公表いたしました数値に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,489,282	11,312,147
受取手形及び売掛金	4,232,502	3,888,505
電子記録債権	1,853,170	1,126,148
棚卸資産	3,069,715	3,458,309
その他	2,499,261	2,099,887
貸倒引当金	△1,152	△856
流動資産合計	23,142,780	21,884,141
固定資産		
有形固定資産	2,633,603	2,579,491
無形固定資産	807,641	919,911
投資その他の資産		
その他	1,775,676	1,894,794
貸倒引当金	△13,325	△13,305
投資その他の資産合計	1,762,350	1,881,488
固定資産合計	5,203,595	5,380,892
資産合計	28,346,375	27,265,033
負債の部		
流動負債		
買掛金	778,609	773,444
電子記録債務	695,539	708,213
未払法人税等	964,180	512,967
受注損失引当金	272,914	79,168
その他	3,499,363	3,390,225
流動負債合計	6,210,607	5,464,019
固定負債		
退職給付に係る負債	266,310	303,873
その他	6,845	6,769
固定負債合計	273,155	310,642
負債合計	6,483,762	5,774,661
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,639,216	1,639,216
資本剰余金	1,614,716	1,614,716
利益剰余金	20,511,058	20,370,812
自己株式	△2,000,402	△1,949,562
株主資本合計	21,764,587	21,675,182
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	75,554	△202,038
為替換算調整勘定	—	△6,380
退職給付に係る調整累計額	22,470	23,607
その他の包括利益累計額合計	98,025	△184,810
純資産合計	21,862,612	21,490,371
負債純資産合計	28,346,375	27,265,033

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	21,083,070	21,575,361
売上原価	12,345,685	13,025,051
売上総利益	8,737,385	8,550,310
販売費及び一般管理費	6,309,453	7,244,588
営業利益	2,427,931	1,305,722
営業外収益		
受取利息	4	36
助成金収入	534	881
為替差益	—	39,612
投資事業組合運用益	5,177	8,138
その他	1,637	732
営業外収益合計	7,355	49,401
営業外費用		
支払利息	103	568
為替差損	60,547	—
支払補償費	—	2,879
その他	63	159
営業外費用合計	60,713	3,607
経常利益	2,374,573	1,351,515
特別利益		
固定資産売却益	29	2
特別利益合計	29	2
特別損失		
固定資産除売却損	0	156
特別損失合計	0	156
税金等調整前中間純利益	2,374,603	1,351,362
法人税等	791,450	451,757
中間純利益	1,583,152	899,605
親会社株主に帰属する中間純利益	1,583,152	899,605

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	1,583,152	899,605
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	178,586	△277,593
為替換算調整勘定	—	△6,380
退職給付に係る調整額	3,849	1,137
その他の包括利益合計	182,436	△282,835
中間包括利益	1,765,589	616,769
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,765,589	616,769

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,374,603	1,351,362
減価償却費	954,445	1,084,486
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4,037	△316
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	48,955	38,700
受取利息及び受取配当金	△4	△36
支払利息	103	568
為替差損益 (△は益)	△5,559	4,633
固定資産除売却損益 (△は益)	△29	153
売上債権の増減額 (△は増加)	△693,544	1,071,019
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,295,993	△388,593
未収入金の増減額 (△は増加)	△42,458	△1,450
前渡金の増減額 (△は増加)	△44,032	241,778
仕入債務の増減額 (△は減少)	341,066	7,509
未払金の増減額 (△は減少)	41,810	△164,938
未払費用の増減額 (△は減少)	△101,655	△13,584
その他	309,152	△305,168
小計	1,882,821	2,926,124
利息及び配当金の受取額	4	36
利息の支払額	△103	△568
法人税等の支払額	△73,279	△891,763
法人税等の還付額	7,043	—
解約違約金の支払額	—	△11,845
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,816,486	2,021,984
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△635,724	△865,890
有形固定資産の売却による収入	30	5
無形固定資産の取得による支出	△240,006	△313,444
差入保証金の差入による支出	△66,156	△1,649
その他	8,644	20,780
投資活動によるキャッシュ・フロー	△933,213	△1,160,198
財務活動によるキャッシュ・フロー		
セール・アンド・リースバックによる収入	653,196	871,323
リース債務の返済による支出	△655,290	△874,031
配当金の支払額	△1,004,721	△1,031,160
自己株式の取得による支出	△34	△38
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,006,849	△1,033,907
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,559	△11,013
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△118,017	△183,135
現金及び現金同等物の期首残高	10,800,352	11,489,282
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,682,335	11,306,147

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

(連結の範囲の重要な変更)

当中間連結会計期間より、新たに設立したFURYU of America, Inc. を連結の範囲に含めております。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	世界観ビジネス	ガールズトレン ドビジネス	フリーニュー ビジネス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,704,176	7,578,646	1,800,247	21,083,070	—	21,083,070
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	11,704,176	7,578,646	1,800,247	21,083,070	—	21,083,070
セグメント利益又は損失 (△)	1,063,675	2,314,739	△153,663	3,224,751	△796,819	2,427,931

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△796,819千円には、セグメント間取引1,920千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△798,739千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	世界観ビジネス	ガールズトレン ドビジネス	フリーニュー ビジネス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,436,864	7,151,938	1,986,558	21,575,361	—	21,575,361
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,436,864	7,151,938	1,986,558	21,575,361	—	21,575,361
セグメント利益又は損失 (△)	915,657	1,758,768	△270,205	2,404,220	△1,098,498	1,305,722

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,098,498千円には、セグメント間取引3,600千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,102,098千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。